



つものカタツムリの角はどうしてしまえるの

つものを出し、やりを出す様子

「デンデンムシムシかたつむり、お前のあたまはどこにある、つもの出せ、やり出せ、頭出せ」と歌われるように、カタツムリは体の中から、いろいろなものが出てきます。殻の中に閉じこもったカタツムリの動き出す様子を見てみると、まず足が出て、首の部分がのびはじめ、頭が出て、2対の触角が出て、大きいほうの大触角の中から目がくり出されてきます。足も完全にのびて、そろりそろりと歩きはじめます。

体はのびちぢみできる

カタツムリやナメクジは、体をのびちぢみさせて運動します。特にナメクジなど、殻のない種類では、体をまん丸くなるほどにちぢめます。体を支えてくれる骨や、殻がないので、こうして丸くなることで、内ぞうを守っているのです。カタツムリやナメクジは、体をちぢめるとい動作をする筋肉が発達しているのです。

体をちぢめることで、触角などをしまいこむ場所ができます。しまう場所が、いつもあいっているわけではありません。

カニの触角には格納庫がある

カニも触角をしまいこみますが、触角をしまう格納庫のようなくぼみが用意されています。（監修・中山 周平）

